



# 施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602

6月の休館日：1月・8月・15月・22月・29月

6月4日(木) 19:00~  
自由 **金亀亭第1回落語ライブ 桂ざこば一門会**

6月12日(金) 19:00~  
自由 **ひこね音楽夜話「クラシック事始」**  
第2話 よーい！ハイドン、もっと  
モーツァルト、だからブラームス♪

6月20日(土) 16:30~  
自由 **みずほ文化センター公演**  
**若州人形座「はなれ替女おりん」**

6月21日(日) 15:00~  
自由 **金亀亭落語塾 第1回【全3回】**  
講師 **笑福亭伯枝さん**  
第2回 7月26日(日) 15:00~  
第3回 8月23日(日) 15:00~

7月12日(日) 13:00~/16:00~ <2回公演>  
指定 **ミッフィー子どもミュージカル**  
**「ミッフィーのおたんじょうび」**

7月20日(月祝) 14:00~  
指定 **ブロードウェイミュージカル**  
**「フログとトード がま君とかえる君の春夏秋冬」**

7月24日(金) 19:00~  
自由 **東京銘曲堂コンサート**

7月29日(水) 18:30~  
指定 **キエフ・クラシック・バレエ**  
**「白雪姫」全2幕**

9月18日(金) 19:00~  
自由 **金亀亭第2回落語ライブ 柳家花緑独演会**

## ひこね市民大学講座

- 第1講 7月4日(土) 14:00~  
朝原宣治さん(北京オリンピック銅メダリスト)
- 第2講 7月18日(土) 14:00~  
神田鯉風さん、神田陽司さん(講談師)
- 第3講 9月5日(土) 14:00~  
童門冬二さん(作家)
- 第4講 9月27日(日) 14:00~  
枝廣淳子さん(環境ジャーナリスト)
- 第5講 10月10日(土) 14:00~  
金子勝さん(慶應義塾大学経済学部教授)

託児サービス・臨時バスの運行については、公演ごとに異なります。詳しいことは、お問い合わせください

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは  
**チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)**

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520

6月の休館日はありません。  
※23日(火)~同25日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30~17:00 (入館は16:30まで)

6月26日(金)~7月22日(水)

## 直弼発見! 巻の7

### 「井伊直弼を支えた人々」

直弼の人格形成に影響を与えた師から大老政治のために奔走した側近まで、直弼を支えた人物を紹介します。



長野義言画像(個人蔵・部分)

ギャラリートーク

#### 「井伊直弼を支えた人々」

6月27日(土) 14:00~15:00

解説：本館学芸員 野田浩子  
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

## 直弼のころ

幕末の大老、井伊直弼(1815~1860)は、国政を担う政治家として知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむきに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。

このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

6月24日(水)~7月21日(火)

### 漣風炉

寄せては返すさざ波と直弼自作の和歌を鏤出した、直弼好みの風炉。自筆の下絵とともに伝わります。



常設展の名品

写真2 御旗御糺軍御蠅取御絵図のうち 収蔵糺軍之図

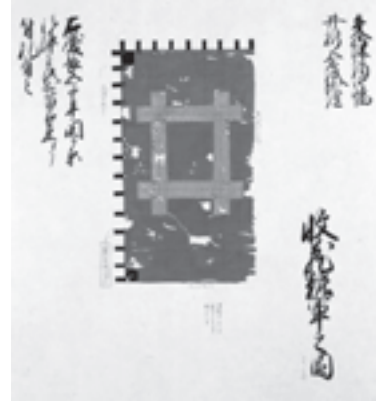


写真1 朱地金井桁紋纏



「井伊の赤備え」という言葉を聞いたことのある人は多いと思います。これは、井伊家の軍勢の装備が赤色で統一されていたことを指しています。彦根城博物館では「赤備え」を紹介するため、通常、彦根藩主と彦根藩士の甲冑各1領を展示しています。どの甲冑も全体に朱漆が塗られ、赤を基本色とします。「赤備え」は、甲冑に限った言葉ではありません。井伊家では、甲冑や馬具、陣羽織などを赤色とすること、赤い垂れのついた金の蠅取の形の馬印を用いることが定められていました。また、大将の位置を示す纏と呼ばれる大旗や、騎馬武者が背中に差す各自の名前を表した旗、そして足軽が腰に差す旗などについても、大きさや仕様に決まりがあり、赤を主たる色とするように定めています。赤い旗がたなびく井伊家の軍は遠くからでも一目で分かり、その活躍が知られたることになったのです。

この纏は、彦根城博物館に収蔵された時には繊維が解け、バラバラの断片になっていました。写真2は、江戸時代後期にこの纏を描いた図ですが、これを見るとすでに破れが目立っていることがわかります。この図は、12代井伊直亮(1794~1850)が、井伊家に代々伝えられた武具類を記録する目的で作成させた絵図のうちの1枚です。損傷箇所まで正確に写し取った図に、素材や法量などの情報、この纏が慶長五年(1600)の関ヶ原の戦いにおいて用

いたことがわかります。この纏は、赤地に金色で井桁を表した纏です。赤く染めた絹をおよそ縦2m70cm、横1m50cmほどの大きさに縫い継ぎ、その上に金箔を貼った紙を井桁に象り、縁を金糸で縫い付けています。縦横二方には乳と呼ばれる小さな輪が、左端の上下2か所には力布が付けられており、どちらも紺の木綿製で、白糸による飾り縫いが施されます。戦場では乳に棹を通して高く掲げられました。

写真1「朱地金井桁紋纏」は、6月26日(金)~7月22日(水)期間中無休に展示します。

られたという由緒が書き添えられています。ただし、この由緒は当時伝えられていたことであり、長い年月を経ているために伝承が混乱している可能性も考えられます。しかし、破れていてもこの纏が大切に保管されて伝えられてきたのは確かな事実です。関ヶ原の戦いは、徳川幕府や彦根藩主井伊家の確立に重要な役割を果たした合戦の1つであり、そこでの武功は江戸時代を通じて語り継がれてきました。井伊家にとって、この纏はただの武具ではなく、家の誉れを象徴するものだったのでしょう。幸い、近年の修理によってこの纏は往時の姿を取り戻し、展示が可能となりました。ぜひご覧になって、「井伊の赤備え」の雄姿に思いを馳せていただければと思います。(彦根城博物館学芸員 坪内広子)

# とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



第154回